

第78期 中間報告書

平成28年1月1日から
平成28年6月30日まで

キヤノン電子株式会社

証券コード：7739

ごあいさつ



株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

このたびの熊本地震により被災されたみなさまには、心からお見舞い申しあげます。

第78期中間期（平成28年1月1日から平成28年6月30日まで）のご報告にあたり、ごあいさつ申しあげます。

代表取締役社長

酒 巻 久

当中間期の世界経済は、年初からの原油価格の低迷、世界規模の株式市場の下落、さらには為替の円高が進行するなど景気が下降気味となり、不透明感の強い状況が続きました。国内経済は円高進行を受けた企業収益の下振れや熊本地震の影響など、停滞感の強い状況が続いています。為替は、前期と比べ米ドル、ユーロとも円高傾向で推移しました。

このような状況下で当社グループは、収益の拡大を目指し、シャッターユニットやドキュメントスキャナー、ハンディターミナル、セキュリティソフト等、全社を挙げて積極的な拡販活動を展開しました。そして、成長分野・新規事業への取り組みにもより一層注力しました。

また、経営全般にわたりムダ排除に徹底的に取り組む、リーンな体質の維持向上に注力してまいりました。さらに、生産性向上活動、地球規模の環境保護に貢献することを目的とした3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動も積極的に推し進めてまいりました。

こうした取り組みを行いました。当中間期の連結売上高は408億46百万円（前年同期比12.6%減）、連結経常利益は35億4百万円（同45.6%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は24億28百万円（同42.3%減）となりました。

このように厳しい事業環境の中ではありますが、中間配当金につきましては、株主のみなさまの日頃のご支援にお応えするために1株につき30円とし、お支払い開始日を8月26日といたしました。

今後もイギリスのEU離脱決定の影響など、世界経済の先行きは不確実性が高く、予断を許さない状況が続きますが、引き続き全社員の力を結集させ、これまで以上に業績向上へ取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申しあげます。

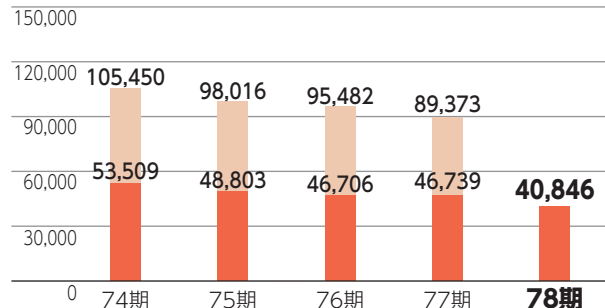
平成28年8月

財務ハイライト (連結)

売上高

(単位：百万円)

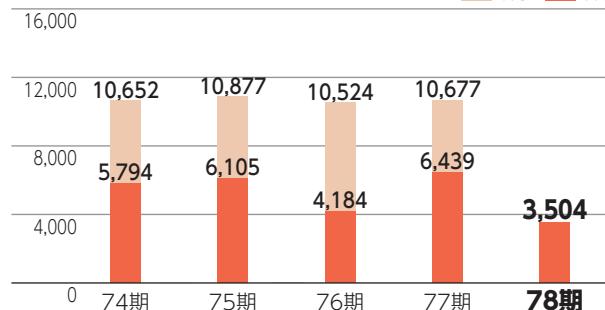
■ 年間 ■ 中間



経常利益

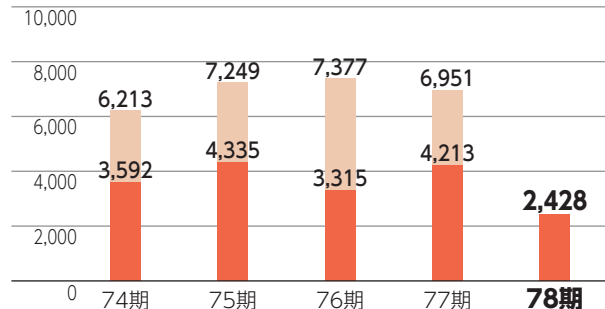
(単位：百万円)

■ 年間 ■ 中間



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (単位：百万円)

■ 年間 ■ 中間



経営方針

企業品質向上を目指して

社会人として思いやりを
持った人格の形成

世界から尊敬と信頼を
受ける企業と人

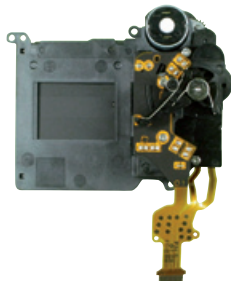
CONTENTS

ごあいさつ	1
財務ハイライト (連結)	2
事業の部門別状況	3
連結財務諸表	5
会社の概況	6
株式のご案内	裏表紙

コンポーネント部門

当中間期の概況

デジタルカメラ市場は、レンズ交換式タイプ、コンパクトタイプとも、スマートフォン等の普及の影響により厳しい市場環境が続いています。このような状況の下、主力製品であるデジタルカメラ用シャッターユニットや絞りユニット、防振ユニット等の積極的な受注活動を展開しましたが、市場縮小の影響を受け売上は減少しました。また、海外市場が急成長しているATM市場向けにセンサーの拡販活動を展開しました。

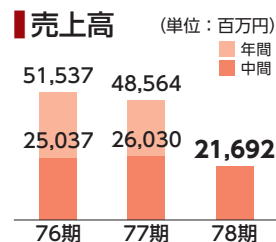
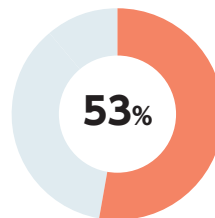


レンズ交換式デジタルカメラ用シャッターユニット

レーザープリンター、複合機向けのレーザースキャナーユニットは、生産性の向上、構成部品の内製化等、生産体制の強化等を積極的に推し進め、引き続き原価低減に取り組みましたが、市場の縮小により売上が減少しました。

当部門の連結売上高は216億92百万円（前年同期比16.7%減）となりました。

部門別
売上高
構成比



電子情報機器部門

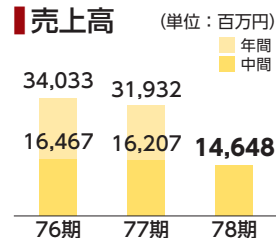
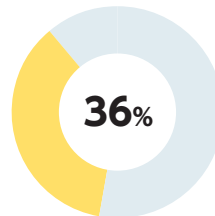
当中間期の概況

ドキュメントスキャナー市場は、アジア・中近東等の新興国市場における文書電子化需要の増加により、引き続き拡大傾向にあります。このような状況の下、低速機から高速機までラインアップをより充実させたimageFORMULA（イメージフォーミュラ）シリーズの一層の拡販に努めました。中国をはじめとするアジア向けの販売数は増加しましたが、為替が円高に推移した影響を受け、また主要地域である米国および欧州での市場低迷もあり、売上は減少しました。



imageFORMULA DR-C240

部門別
売上高
構成比



ハンディターミナル市場は、スマートフォンやタブレット端末との差別化となる自動認識技術や決済機能を搭載する端末の開発など、新たなビジネスチャンスが広がりつつあります。このような状況の下、製造業向けにPDA型ハンディターミナルを拡販し、大型商談を受注するなど、売上は増加しました。

レーザープリンターは、新製品の量産立ち上げ、効率的な部品調達や生産性の向上、市場の動向に応じた生産体制の確立等に取り組みましたが、売上が減少しました。

当部門の連結売上高は146億48百万円（前年同期比9.6%減）となりました。



PDA型
ハンディターミナル
「プレアGT-3」

その他の部門

当中間期の概況

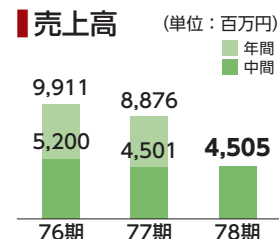
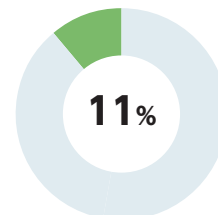
情報関連事業は、情報セキュリティ対策ソフト（SML）、業務分析サービス（ログマネジメント）、名刺管理サービス（アルテマブルー）、医療機関向けパッケージソフト（医用辞書）等の受注活動を積極的に展開しました。セキュリティ製品・サービスにおいては、ハッカーによる標的型攻撃から企業の情報資産を守るWindows用セキュリティソフト「SMLセキュリティスイート」と「SMLセキュリティスイート with FFR yarai」の拡販に努めました。

また、サーバーやネットワークの構築等、インフラ関連やシステム開発・保守・運用案件の獲得に努めるとともに、ストレスチェック義務化に対応したメンタルヘルスケア支援ソリューション「MENTAL AID」や、クラウドサービスを利用したマイナンバー管理ソリューションなどの販売にも注力しました。

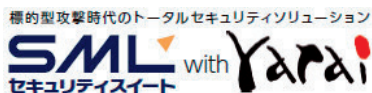
環境機器事業は、小型三次元加工機「MF-150A」および業務用生ごみ処理機「Land care16 II」、小型電動射出成形機「LS-715シリーズ」を主力商品として販売活動を展開しました。新たなボディーカラーの製品を発表し、お客様から好評を博しています。

これらの取り組みの結果、当部門の連結売上高は45億5百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

部門別
売上高
構成比



業務用生ごみ処理機「Land Care16 II」



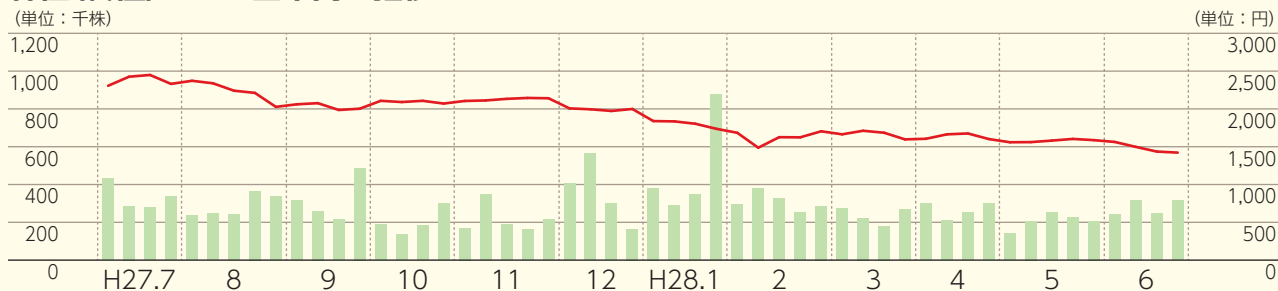
中間連結貸借対照表(要旨)

科目	当中間期	前期(ご参考)
	(平成28年6月30日現在)	(平成27年12月31日現在)
	百万円	百万円
(資産の部)		
流動資産	[62,982]	[61,957]
固定資産	[38,952]	[39,822]
有形固定資産	34,246	34,628
無形固定資産	1,281	1,221
投資その他の資産	3,424	3,972
資産合計	101,934	101,780
(負債の部)		
流動負債	[17,340]	[16,721]
固定負債	[5,708]	[6,519]
負債合計	23,049	23,240
(純資産の部)		
株主資本	[81,315]	[80,111]
資本金	4,969	4,969
資本剰余金	9,595	9,595
利益剰余金	69,329	68,125
自己株式	△ 2,578	△ 2,578
その他の包括利益累計額	[△ 2,489]	[△ 1,627]
その他有価証券評価差額金	126	264
為替換算調整勘定	△ 31	832
退職給付に係る調整累計額	△ 2,584	△ 2,723
非支配株主持分	[59]	[55]
純資産合計	78,885	78,539
負債及び純資産合計	101,934	101,780

中間連結損益計算書(要旨)

科目	当中間期	前中間期(ご参考)
	(自平成28年1月1日 至平成28年6月30日)	(自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
	百万円	百万円
売上高	40,846	46,739
売上原価	31,336	35,270
売上総利益	9,510	11,468
販売費及び一般管理費	4,973	5,238
営業利益	4,536	6,229
営業外収益	61	213
営業外費用	1,093	3
経常利益	3,504	6,439
特別利益	47	0
特別損失	0	12
税金等調整前中間純利益	3,551	6,428
法人税、住民税及び事業税	892	1,827
法人税等調整額	226	385
非支配株主に帰属する中間純利益	3	2
親会社株主に帰属する中間純利益	2,428	4,213

株価(終値)および出来高の推移 (平成27年7月1日～平成28年6月30日)



会社の概況（平成28年6月30日現在）

主要な事業内容

部門	主要製品
コンポーネント部門	シャッターユニット、絞りユニット、ステッピングモーター、磁気ヘッド、磁気センサー、レーザーキャナーユニット、プリント基板実装
電子情報機器部門	ドキュメントスキャナー、ハンディターミナル、レーザープリンター
その他の部門	業務分析サービス、情報セキュリティ対策サービス、名刺管理サービス、顧客情報管理サービス、システム開発、FA機器、環境関連機器、小型電動射出成形機、小型三次元加工機

従業員の状況

連結

従業員数	前期末比増減
4,526名	+86名

単独

従業員数	前期末比増減
1,751名	+14名

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	42,206,540株
株主数	16,846名
大株主（10名）	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
キヤノン株式会社	22,500	55.1
ビーエヌピー パリバセック サービス ルクセンブルグ ジャスデック アパディーン グローバル クライアント アセツ	1,196	2.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	884	2.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	749	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	436	1.1
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	427	1.1
第一生命保険株式会社	414	1.0
メロンバンク トリーティー クライアンツ オムニバス	273	0.7
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505223	238	0.6
株式会社みずほ銀行	234	0.6

注. 持株比率は、発行済株式総数から自己株式（1,389,825株）を控除して算出しております。

取締役および監査役

地位	氏名
代表取締役社長	酒 巻 久
取締役副社長	橋 元 健
専務取締役	江 原 孝 志
専務取締役	石 塚 巧
常務取締役	清 水 栄 一
常務取締役	新 井 忠 志
常務取締役	周 耀 民
取締役	常 藤 恭 司
取締役	内 山 毅
取締役	高 橋 純 一
取締役	植 竹 利 雄
取締役(社外)	豊 田 正 和
取締役(社外)	内 海 勝 彦
常勤監査役	川 名 達 也
監査役	恩 田 俊 二
監査役(社外)	岩 村 修 二
監査役(社外)	中 田 清 穂

会計監査人 新日本有限責任監査法人

株式のご案内

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

上記基準日 毎年12月31日

中間配当基準日 毎年6月30日

期末配当基準日 毎年12月31日

株主名簿管理人 および
特別口座 口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

株式事務のお問合せ先 住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金の振込指定等のお手続きは、株主様が口座を開設されている証券会社等にお問合せください。
未払い配当金のお支払い手続き、または特別口座に記録された株式に関するお手続きは、下記みずほ信託銀行にお問合せください。

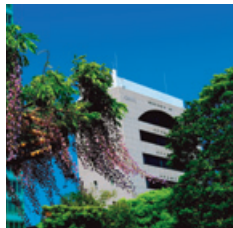
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

単元株式数 100株

公告掲載新聞 日本経済新聞

上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部

証券コード 7739



表紙写真のご案内

撮影 前田 靖治氏

昭和19年東京都千代田区生まれ

愛機 Canon PowerShot SX50 HSを手に、撮影を続けている
最近では、東京の日々の風景や、季節の花々などを題材とした撮影を行っている

Canon

キヤノン電子株式会社

本 社

〒369-1892 埼玉県秩父市下影森1248番地
電話 0494-23-3111

東京本社

〒105-0011 東京都港区芝公園三丁目5番10号
電話 03-6910-4111

インターネットホームページ

<http://www.canon-elec.co.jp/>